令和６年度
オーストラリアへの
白石市中学生派遣事業
事業報告書

白石市国際交流支援協議会

目次

✈ 令和６年度オーストラリアへの白石市中学生派遣事業　概要　・・p.2

✈ 令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　団員名簿　・・・・p.2

✈ 令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　訪問日程表　・・・・p.3

✈ 令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　活動の記録　・・・・p.4

✈ 令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　感想文集

◆「楽しかったオーストラリア」　白石中学校　２年　我　妻　奏　心　・・p.8

◆「オーストラリアに行って」　白石中学校　２年　有　田　梨沙子　・・p.9

◆「オーストラリアで過ごして」　白石中学校　２年　髙　橋　理　人　・・p.10

◆「オーストラリア派遣事業を振り返って」　白石中学校　２年　二　瓶　昂　成　・・p.11

◆「オーストラリアに行って」　白石中学校　２年　本　郷　日香莉　・・p.12

◆「これまでで一番大切な出会い」　福岡中学校　２年　髙　野　快　晴　・・p.13

◆「I love Australia.」　東中学校　２年　阿　部　ななせ　・・p.14

◆「オーストラリアに行ってみて」　東中学校　２年　島　田　亜　子　・・p.15

◆「オーストラリア派遣事業を振り返って」　東中学校　２年　菅　原　凛　希　・・p.16

◆「オーストラリア派遣事業を振り返って」　東中学校　２年　八　木　颯　介　・・p.17

◆「令和６年度オーストラリア友好親善訪問団の引率を終えて」　団長　佐久間　詳　子　・・p.18

◆「カウラから、世界へ、平和を」　副団長　先　﨑　一　史　・・p.20

✈ 訪問団生徒に向けて　～IEC Oceania　ミディ中嶋氏より～　・・p.21

令和６年度オーストラリアへの白石市中学生派遣事業　概要

1．事業趣旨

オーストラリアに中学生を派遣し、ホームステイや体験入学等の交流を通して、中学生の豊かな国際感覚を育み、互いの文化・価値観・生活様式等の理解と尊重を図り、友情を育むこと。

2．訪問先・交流校

【訪問先】　オーストラリア・ニューサウスウェールズ州　シドニー、カウラ、キャンベラ
【交流校】　聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ

3．訪問日程・宿泊

令和６年７月 29 日（月）～8 月７日（水）　【9 泊 10 日】
ホテル（シドニー、キャンベラ）2 泊、ホームステイ（カウラ）5 泊、機内 2 泊

4．訪問団の構成

【生徒】　市内中学校　２年生　10 名
【引率】　市職員（団長）　１名、学校教職員（副団長）　１名

5．内容

◆ホームステイ
◆交流校での学校体験（2 日間）、パフォーマンス披露、日本文化の紹介
◆シドニー、カウラ、キャンベラ市内見学（文化、歴史施設等）

令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　団員名簿

		所属	氏名	よみがな	性別
生徒	1	白石中学校	我　妻　奏　心	あがつま　かなみ	女
	2		有　田　梨沙子	ありた　りさこ	女
	3		髙　橋　理　人	たかはし　あやと	男
	4		二　瓶　昂　成	にへい　こうせい	男
	5		本　郷　日香莉	ほんごう　ひかり	女
	6	福岡中学校	髙　野　快　晴	たかの　かいせい	男
	7	東中学校	阿　部　ななせ	あべ　ななせ	女
	8		島　田　亜　子	しまだ　あこ	女
	9		菅　原　凛　希	すがわら　りの	女
	10		八　木　颯　介	やぎ　そうすけ	男
引率	団長	白石市商工観光課	佐久間　詳　子	さくま　しょうこ	女
	副団長	白石中学校	先　﨑　一　史	せんざき　かずふみ	男

令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　訪問日程表

	月日	地名・場所	時刻	内容
1	７月 29 日 （月）	白石市役所 白石蔵王駅　発 東京駅　　着 羽田空港　　発	12:30 13:58 15:48 22:00	出発式（正面玄関前）　⇒　市バスで白石蔵王駅へ やまびこ 142 号 カンタス航空（QF60 便）
2	７月 30 日 （火）	シドニー空港　着	8:55 20:00	シドニー市内見学【動物園（Featherdale Wildlife Park）　⇒　フェリー乗船　⇒　サーキュラキー　⇒　オペラハウス　⇒　ライトレール（路面電車）乗車　⇒　ホテル（Metro Hotel Marlow Sydney）】 ミセス・マッコーリー岬で夜景を楽しむ
3	７月 31 日 （水）	シドニー　発 カウラ　着	7:30 9:15 14:40 15:05	 ブルーマウンテンズ国立公園見学 日本人墓地見学 聖ラファエル校到着　⇒　ホストファミリーと対面、ホームステイへ
4	８月１日 （木）		 9:10 11:00 12:15 13:10 14:10 15:15	ホストシスター・ブラザーと一緒に登校 出し物発表（1 時間目） 通常授業体験 日本庭園見学 カウラホログラム資料館見学 通常授業体験 ホストシスター・ブラザーと一緒に下校
5	８月２日 （金）		 12:00 14:00 15:15	ホストシスター・ブラザーと一緒に登校 ベン・クーリーズ牧場見学 通常授業体験 ホストシスター・ブラザーと一緒に下校
6	８月３日 （土）		 夕方	ホストファミリーと１日過ごす １つのホストファミリー宅へ全員集合し、ボン・ファイヤーと夕食
7	８月４日 （日）		 夕方	ホストファミリーと１日過ごす ランタンパレード参加・平和の鐘慰霊式典（団長・副団長は夕食会）
8	８月５日 （月）	 カウラ　　発 キャンベラ　着	8:30 9:00 11:00 12:50 15:00	学校集合 日本兵集団脱走事件慰霊式典参列 戦争記念館見学 国会議事堂見学
9	８月６日 （火）	 キャンベラ　　発 シドニー空港　着 シドニー空港　発	10:00 13:00 17:30 20:55	在オーストラリア日本大使館見学　⇒　キャンベラ市内見学（国立首都展示場、グリフィン湖など） カンタス航空（QF25 便）
10	８月７日 （水）	羽田空港　　着 東京駅　　発 白石蔵王駅　着	5:55 10:00 11:47	 やまびこ 133 号 駅内で解散式

ホームステイ

令和６年度オーストラリア友好親善訪問団　活動の記録

✈ ６月 13 日（木）　保護者説明会（市役所３階　第３会議室）

訪問団決定後、初めて全員が顔を合わせました。事務局からの説明にしっかりと耳を傾け、訪問団としての使命や責任について理解しようとしていました。

また、令和 5 年度友好親善訪問団の生徒から、体験談講話として、オーストラリアで感じたことやアドバイスを数多くいただきました。オーストラリアでの体験、学びに期待を膨らませている様子でした。

✈ ６月 20 日（木）　第１回事前研修会（防災センター2 階　会議室）

保護者説明会から 1 週間。オーストラリアでの生活を見据え、まずは、自己紹介やアイスブレイクなどを行いました。初めは声も小さく笑顔も少なかったですが、会話を重ねるうちに自然と声も笑顔も出てくるようになりました。10 日間、共に生活をする仲間と少しずつ距離を縮めていきました。

✈ ６月 27 日（木）　第２回事前研修会（防災センター2 階　会議室）

語学演習を行った後、全体発表の内容を全員で話し合い、ダンスを披露することが決まりました。

班ごとの出し物についても、自分たちで準備するもの等を確認しました。前回の研修会よりも話しやすく、和やかな雰囲気で活動していました。

7月4日（木）　第3回事前研修会（防災センター2階　会議室）

語学演習は、「学校体験」をテーマに、貴重な体験を有意義なものにできるよう、聖ラファエル校の生徒との会話を想定して取り組みました。

研修後半は、班ごとの出し物を中心に、実際に物を用いての練習を行いました。班ごとに流れや紹介内容等について話し合い、ALTや英語科の先生を生徒役に見立てるなど、それぞれが役割を理解し、本番を意識し取り組みました。

7月11日（木）　第4回事前研修会（防災センター2階　会議室）

語学演習では、白石の魅力や特徴を伝える練習をしました。少し苦労している様子もあった英会話に自信が見られ、言葉だけでなくジェスチャーも交え、「伝える」意識が強まった様子でした。

班ごとの出し物練習では、英語での説明の仕方を中心に、ALTにアドバイスをもらいながら確認しました。

全体発表に向けては、振り付けの暗記を目標に、そこに込められた思いも意識し、全員が堂々と踊れるように繰り返し練習を行いました。

7月18日（木）　第5回事前研修会（防災センター2階　会議室）

最後の事前研修会となったこの日は、班ごとの出し物練習と全体発表の最終確認を行いました。翌週の結団式では全体発表を披露するため、これまで以上に真剣に取り組んでいました。

また、全5回の研修でサポートしてくれたALTにお礼を述べ、市の代表として、オーストラリアでの体験を有意義なものにすることを誓いました。

7 月 24 日（水）　結団式（防災センター2 階　会議室）

全 5 回の事前研修会もあっという間に終わり、市関係者や訪問団生徒の所属中学校長、事前研修会でお世話になった英語科の先生などをお迎えし、結団式が行われました。山田市長からは、「色々なことに挑戦してほしい」「白石市、日本の親善大使として PR してきてほしい」とお話をいただきました。

その後、事前研修会の成果披露として全体発表のダンスを披露し、生徒は少し緊張しながらも、練習の成果を存分に発揮しました。

訪問団は、市の代表である自覚と責任を改めて認識し、訪問への期待に胸を膨らませた様子でした。

7 月 29 日（月）　出発式（市役所正面玄関前）

待ちに待った出発の日。訪問団はトラブルや体調不良もなく、明るく、決意に満ちた表情で集合しました。

生徒代表あいさつでは、「受け身にならず、積極的に物事に取り組み、自分が成長できるチャンスを無駄にしない」「一人でも多くの人と関わり、様々なことを学びたい」と力強い言葉がありました。

8 月 7 日（水）　解散式（白石蔵王駅）

10 日間の行程を済ませ、訪問団は無事に白石へ帰ってきました。大きなトラブルもなく、立派に役割を果たした生徒たちは、達成感や自信に満ち溢れた表情をしていました。生徒代表あいさつでは、オーストラリアで学んだことや関わってくれた方々への感謝の気持ちを伝えました。

8 月 21 日（水）　解団式（市役所 4 階　大会議室）

帰国から約 3 週間後、解団式が行われ、オーストラリアでの活動報告や今後の決意を発表しました。特に、カウラでの慰霊式典やキャンベラの戦争記念館に大きく影響を受け、平和学習の良い機会となりました。また、それぞれの将来に向けて、今回の派遣事業を通して感じたこと、レベルアップしたいと思ったことを発表し、更なる成長を誓いました。

よりたくましくなった生徒たちが、世界に羽ばたくことを期待します。

11 月 24 日（日）　白石市青少年健全育成　市民のつどい（白石市中央公民館）

派遣事業の集大成とも言える場で、同じ中学生や市民向けに訪問団の活動を発表しました。訪問団の生徒は、10 月に来白した聖ラファエル校御一行をホストファミリーとして受け入れ、そこでの経験や感想も併せて発表しました。

解団式以来の発表の場となりましたが、緊張を見せることなく、自分たちしか経験していない貴重な相互交流について堂々と発表しました。

つどいの中では、中学校 3 年生による「私の主張」も発表され、真剣に耳を傾けながら、刺激を受けている様子でした。

「楽しかったオーストラリア」

白石中学校　２年　我　妻　奏　心

私が派遣事業に応募したのは、自分を成長させ、他の国の文化や歴史を学びたいと思ったからです。特に、現地の生徒の積極性や日本と違うところなどを知りたいと思いました。もともと外国に興味があり、一度は行ってみたいと思っていました。また、私のお父さんも中学生の時に派遣事業を体験していて、日本とは違うことなどを学べてすごくいい経験になったと話していました。話を聞いているうちに疑問が浮かんだり、私もオーストラリアに行ってみたいと思うようになったりと、より外国に興味を持つようになりました。合格した時はとても嬉しかったです！

事前研修では、ALT の先生や各中学校の英語の先生とコミュニケーションをとることが多く、英語で何というか分からなかったところも教えていただいたおかげで、使える英語がとても多くなりました。

不安も多かった中、オーストラリアで特に私が一番楽しかったことや印象に残ったことは３つあります。

１つ目はホームステイです。私は初日とても緊張していてあまり話すことができませんでしたが、感謝を伝えていました。そのおかげで少しずつ会話が続いたり、盛り上がったりして緊張は無くなっていきました。英語を聞き取れなかった時などには翻訳を使ってくれたり、時には日本語で話してくれたりもしました。私が日本のことを紹介すると、興味を持ってくれたり、行ったことのある都道府県の話などをしたりしてくれて、話していてとても楽しかったし、嬉しかったです。日本のことが本当に好きであると伝わってきました。また、お風呂は基本的にシャワーだけということや、トイレや部屋のドアは開けておくということに驚きました。その他にも日本と違うところを見つけることができました。ホームステイをした５日間は充実していて楽しかったです。ホストファミリーと別れるのはとてもさみしかったけどみんな面白くて優しくて、出会えてよかったと思います。

▲ホストシスターのジョージィと

２つ目は誰にでも話しかけるということです。私も実際に路面電車に乗っているときに近くにいた外国人に話しかけられました。どこから来たのか、これからどこに行くのか、オーストラリアは好きかなどと質問されて、話していることはわからない時もあったけど、伝えたいことはなんとなく分かり、友達と補い合いながら会話を楽しむことができました。海外の人は気軽に話しかけてくれて、親切で、心が広いと感じました。

▲聖ラファエル校の生徒と積極的に会話

３つ目は景色が綺麗ということです。建物が綺麗ということもあったけど空がとても綺麗でした。私たちがオーストラリアに行ったときは毎日晴れていて天気が良かったので、お昼ごろでも夜でも空を綺麗にみることができました。特に夜は、ひとつひとつの星が輝いていて、言葉に表せないくらい綺麗で感動しました。日本では絶対に見ることのできないものだと思いました。

▲現地ガイドのミディ氏の話を聞く

今回は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。支えてくださった市役所の皆さんや学校の先生方、そしてオーストラリアへ行くことを応援してくれた家族のみんながいてくれたおかげで、とてもいい経験をすることができました。本当にありがとうございました。今回の経験をこれからの生活に活かし、何事も積極的に取り組んでいきます。10 月には受け入れがあるので、それに向けて英語の勉強をもっと頑張ります。

「オーストラリアに行って」

白石中学校　2年　有　田　梨沙子

私がこの派遣事業に応募したのは、自分が今どれくらい英語を話せるか試してみたかったからです。私はコロナ禍前、母とよく海外旅行をしていて、その頃は私も英語を上手く話せず、母に英語を話してもらっていました。しかし今回は、自分一人だけで海外に行ける機会があったので挑戦してみたいと思いました。

事前研修では ALT の先生方の協力があり、話し方のアドバイスや外国でピンチになったときの対処法など教えてもらいました。また全体発表のダンスでは、全体で練習する時間は少なかったですが、一人一人が一生懸命練習していて、本番でもその成果が出せたと思います。

▲聖ラファエル校の生徒に折り紙を紹介

私がオーストラリアに行って印象に残ったことは3つあります。

1 つ目は、出し物で日本の物を紹介したことです。私は折り紙を紹介し、コアラや兜など、日本にあるものとオーストラリアにあるもの、どちらも用意しました。1 番は兜が人気でしたが、コアラも人気で、作り終えたときとても喜んでくれました。最後の方には、幼稚園児も来てくれたので、3 人で兜を教えました。みんな一生懸命話を聞いて折ってくれたので、とても上手にできていました。

2 つ目は、日本とは全く異なった気候や景色だったことです。私たちが行ったとき、オーストラリアは冬でとても乾燥していました。また夏の季節から、冬の季節に変わったので寒さにも驚きました。そして景色も驚きました。オーストラリアの夜景は星がたくさんあり、日本では見られない景色でした。

▲ベン・クーリーズ牧場を見学

3 つ目は、ホームステイでの出来事です。ホストファミリーに初めて会うとき、先生や友達と離れて生活するのはとても不安でした。車でホストファミリーの家に行くときも、緊張していて上手く英語で言いたいことが話せなかったです。しかし、ホストファミリーは私に優しく話してくれ、分からないときは翻訳してくれたのでとても安心し、助かりました。話しているときに、「英語が上手だね」と言われたのでとても嬉しかったです。

また、私のホストファミリーはスポーツが大好きで、特にネットボールが好きでした。私はネットボールのルールが分からなかったので、ホストファミリーや友達に教えてもらいました。私は球技があまり得意ではなく、最初はできるか心配でしたが、相手からもらったボールをネットに入れたときに、一緒に喜んでくれて、ハイタッチをしてくれました。そして次の日学校で会ったときに、私に声をかけてくれて、休み時間にたくさん話しました。初めて外国の友達が出来たのでとても嬉しかったですし、連絡先も交換したので日本に帰ってからもたくさん話したいと思いました。

▲聖ラファエル校での学校体験

今回の派遣事業から、オーストラリアの人たちの温かさが伝わりましたし、まだまだ英語を勉強しなくてはいけないなと思いました。私は将来、英語を使える仕事に就きたいと考えています。この経験を活かし、自分の夢に一歩近づけるように頑張ります。

「オーストラリアで過ごして」

白石中学校　2年　髙　橋　理　人

私は、7月29日から8月7日の10日間オーストラリアへ行きました。この10日間で記憶に残ったことは、4つあります。

1つ目は、シドニーを見学したことです。飛行機から降りて、最初に向かったところは動物園でした。動物園には、オーストラリア固有の動物がたくさんいました。園内で昼食をとり、バスに乗り、次の目的地へ向かいました。フェリーの乗船所につき、フェリーへと乗船し、シドニーを観光しました。ハーバーブリッジをくぐり目的地の乗船所に着きました。そこから歩いてオペラハウスへと向かいました。オペラハウスの建物を見たときは驚きました。帆船の帆を思わせるような独特な形をしていたからです。その形はとても印象に残りました。シドニーを見学したことは、とても良い体験でした。

▲シドニーの動物園を見学

▲他の生徒も合流し、ボン・ファイヤーに参加

2つ目は、キャンプファイヤーをしたことです。目的地に着くとたくさんのホストファミリーが集まっており、とてもにぎやかでした。さらに上を見上げると、空いっぱいの星がありました。天の川もはっきりと見え、とてもきれいでした。そこで歩いているとホストファミリーの方に「楽しい？」と聞かれ、自分が「楽しい」と返すと「もっと楽しんでね」と言われ、カウラの方たちは、とても親切だなと再認識しました。そして、カウラの方たちと話をし、さらに仲を深めることができました。貴重な体験でした。

3つ目は、記念式典へ参加したことです。式典は8月4日から5日の2日間にかけて行われました。過去カウラには、日本人捕虜収容所がありました。そこで日本人全員が快適に過ごしていました。しかし、当時の日本軍は「生きて虜囚の辱めを受けず」ということを教えられていました。この意味は、捕虜になるくらいなら自決しなさいという意味です。この言葉どおり、1944年8月5日午前2時に脱走事件が起こりました。8月4日の式典では、ランタンを持ち、たくさんの方たちが収容所跡地近くを歩きました。目的地に着いたあとは、たくさんのランタンが道の脇に並べてありました。終わりが見えないランタンの列が亡くなった日本兵の数と一緒ということを聞いてとても驚きました。そこで「ふるさと」を歌いました。8月5日午前2時の2発の銃声を再現した花火が上げられ、突撃ラッパが鳴りました。8月5日には、オーストラリア人墓地と日本人墓地にたくさんの人が集まりました。日本から来た代表の方やオーストラリアの代表の方たちが献花していました。今回した体験を忘れずに過ごしていきたいです。

▲キャンベラの戦争記念館を見学

4つ目は、戦争記念館へ行ったことです。戦争記念館では、日本軍が今までオーストラリアにしてきたことが詳しく説明されていました。その中で、一番衝撃を受けたのは、日本兵が敵に刀を振りかぶっている写真を見たことです。当時の日本兵はこのようなことがとても名誉だったのです。戦争記念館で学んだことを今後に活かしていきたいです。

オーストラリアで過ごした10日間は貴重な体験でした。この体験で得たことを学校生活や色々な場面で活かしたいと思います。

「オーストラリア派遣事業を振り返って」

白石中学校　2年　二　瓶　昂　成

▲語学演習で ALT との英会話にチャレンジ

僕が、この派遣事業に応募したきっかけは飛翔祭での発表でした。その前から、この派遣事業があることは知っていましたが、飛翔祭での発表を見て、さらにオーストラリアの自然や景色に興味を持ちました。

事前研修では、普段あまり使わない表現もたくさん勉強し、難しかったです。しかし、オーストラリアへ行くと、事前研修で学んだ表現をたくさん使いました。例えば、飛行機などの緊急時にどのように言うかなどを学びました。また、日常会話で使う表現なども習って現地に行ったため、安心してオーストラリアに行くことができました。行ってみると、事前研修はとても大切だと改めて感じることができました。

カウラ校で、日本の文化を発表したときはとても緊張しました。特にダンスです。しっかり踊り方は覚えていきましたが、日本から出発してから日が空いてしまい、とても心配になりました。しかし本番は、無事成功してとてもうれしかったです。また、班ごとの発表ではこまを紹介しました。カウラ校の生徒は初めての生徒がたくさんいましたが、こまを回して二回目くらいでほとんどの生徒が成功し驚きました。中にはこまを練習し続け、最後はバトルできるほどまで成長している人もいました。途中で幼稚園児も来ました。

▲こまやけん玉を紹介

こまは難しかったので何回も失敗してしまいました。しかし何回失敗しても、諦めず最後には成功していました。とても喜んでいました。なかなか言葉は伝わらなかったのですが、一緒に喜んだり、一緒に頑張ったりと、同じ時間や体験を共有することで、一体感が生まれました。

ホストファミリーとは、スポーツで関わる機会が多かったです。お父さんもラグビーをやっていて、たくさん練習していました。僕はキャッチボールに混ぜてもらいました。最初はきれいな回転で投げられませんでしたが、丁寧に教えてくれたおかげで、できるようになりました。最後にはキャッチの正しいやり方まで教えてくれました。初めてやったスポーツでしたがとても楽しかったです。筋肉をつけたかったのか、レストランに行っても鶏肉を選んでいて意識の高さを感じました。最後の別れは悲しかったけど、とても楽しい時間を過ごせました。

僕は今回の経験で、まだ行ったことのない地域にも行ってみたいと感じるようになりました。今回はオーストラリアに行きましたが、まだまだ行っていない都市がたくさんあります。しかし、今回行った 3 つの地域では、自然の偉大さや人との温かさにふれ、とても感動しました。ぼくは初めての体験や経験に対して、抵抗がありましたが、今回の派遣事業で新しい所で、はじめてのものを見ることの素晴らしさを知ることができました。また、いろいろな学校行事の実行委員などにも、できるか心配で消極的になってしまう自分がいましたが、今回の体験で初めてのことをたくさんやり遂げました。終わってみると、不安より楽しさが勝り、やってよかったという気持ちがたくさん生まれました。自分のこれからの生活に活かしていこうと思います。

▲ホストファミリーと

「オーストラリアに行って」

白石中学校　２年　本　郷　日香莉

私が今回オーストラリア派遣事業に応募したのは、昨年度オーストラリアからきた生徒さんと少し関わる機会があり、その時に自分の実力不足のせいでうまく話せなかったのが悲しく、悔しかったからです。オーストラリアに行けると知ったときはとても嬉しかったです。しかし、それと同時に不安な気持ちもたくさんありました。

事前研修での初顔合わせはすごくドキドキしました。ですが、皆とても優しくこのメンバーでオーストラリアに行けるということが何よりほっとしたし、嬉しかったです。また、初めはどんな準備をすればいいかなど右も左も分からない状況だったのですが、事前研修を重ねていき、徐々に不安な気持ちがわくわくに変化していきました。そしてこんなにも積極的に英語を話していくのは、難しいけれど楽しいことだと少しずつ実感していきました。皆で練習するダンスや折り紙も楽しかったです。

▲シドニーの動物園を見学

あっという間に時は過ぎ、オーストラリアへ出発する日となりました。この時は羽田空港に驚いていましたが、オーストラリアにいった帰りの羽田空港では、オーストラリアの広大さを目にした後なので、物価の安さにしか驚かなくなっていました。

オーストラリアについて最初に思ったことは、寒いということです。南半球ということもあり冬だとは知っていましたが、ここまでとは、という感じでした。寒さなのか緊張なのか、すごくガクガクしていました。ですが、その後に行ったオーストラリアの動物園で緊張や不安が一気にほどけていきました。やっぱりかわいい物を見たり、おいしい食べ物を食べたりすることはいいなと感じました。その後は、シドニーを観光して路面電車やフェリー、オペラハウスなど、初めての乗り物や中々行くことがないような場所を見て回りました。夜のシドニーは絶景でした。

▲ホストシスターのハリエットと

そして、ついに１番の目玉のホームステイがやってきました。正直にいうと、最初は何を話せばいいんだろうや仲良くなれるかな、という気持ちがあり絶対うまくやっていけないと思っていました。ですが、困ったときに助けてくれたり、優しく話しかけてくれたりするホストファミリーの優しさに触れ、このままではダメだと思いました。そこからは最初の方では中々できなかった堂々と過ごすことや、自分が何をしたいかなどを伝えることを頑張っていきました。すると、ホストファミリーもそれに応えるように、前よりも話しかけてくれてとても嬉しかったです。

▲ホストファミリーとお別れ

お別れの前日にホストファミリーがくれたプレゼントは今でも忘れられないほど嬉しかったし、お別れが近づいている気がしてすごく悲しかったです。また、お別れ直前にホストマザーがこっそりくれたチョコレートはすごく美味しかったです。こんな私を本当の家族のように迎え入れてくれたホストファミリーに感謝しかありません。今度は私がハリエットやホストファミリーにもらった優しさを返せるよう、10 月まで必死に英語を勉強しようと思います。

その後、カウラの式典やキャンベラなどで、戦争で起こった出来事を学びました。とても悲惨なことが起こったと知り、皆にオーストラリアの良さを伝えると同時に、こういうこともしっかり伝えていきたいなと思いました。

今回は、本当にこれからの人生に関わっていくような貴重な経験をすることができました。このような良い経験ができたのはガイドをしてくれたミディさん、しっかり見守っていてくれた団長、副団長、様々な準備をしてくれた市役所の方々、そして行くことを許可し、行くときに必要なものなどを買ってくれた家族のおかげだと思っています。そのことに感謝し、これからの生活を過ごしていきたいと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

「これまでで一番大切な出会い」

福岡中学校　2年　髙　野　快　晴

英語の授業の時、先生からオーストラリア派遣について話があり、少し興味があったけど、英語の実力が不安になり、応募しなくてもいいかなと少し思っていた時、「オーストラリア行ってきなよ」と母が言い、応募だけでもしてみたくなり、受からないだろうと思いながらも応募しました。面接の日が近づくにつれ、行きたい、行けたらいいなと思うようになり、面接で話しそうなことを練習し、面接に挑みました。

学校で昼休みの時間に校長室に来て欲しいと言われたときは、面接の結果だとすぐに分かり、緊張しました。校長先生から直接、派遣メンバーに選ばれたことを教えてもらったときは、すごく嬉しかったのを、はっきり覚えています。家族にメンバーに選ばれたことを話したときは、自分でも本当だったのかと思うほどのことだったので、パスポート申請書を見せ家族に話しました。特に、母はすごく喜び「やったー」と喜んでいました。

緊張して初めて事前研修に行ったときは、周りのみんなは、4人以上同じ学校で、1人だけの状態だったので少し不安でしたが、みんなとても優しく、学校が違うことを感じさせないような人しかいなく、不安はそのうち無くなり嬉しかったです。英語の練習では、もっと英語を勉強しないと、と思うことがあり英語で話せると良いことなどたくさんメモしました。英語はやっぱり難しいと思う中、他のみんなとペアで英語練習したとき、自分でも気づけなかった事を質問してくれるなど、確かにと思うこともあり、すごく大きな支えにもなりました。

▲ジェスチャーも交え、語学演習に取り組む

【オーストラリアへ】　オーストラリアに行く日、メンバーとはすごく気軽に話せるようになり、メンバーに対する不安は無くなっていました。オーストラリアに着き、空港を出たときは、白石にはないような景色が 360 度広がっており、海外に来たと実感しました。ミディさんと空港の近くで会い、シドニーについてバスの中で教えてもらいました。カウラのことばかり調べていたので、知らなかった事をたくさん知ることができ、話にとても興味を持ちました。オペラハウスやブルーマウンテンなど大きな建物を見たとき、写真を撮りたいとすぐに思ってしまうほど、海外にいることに対して嬉しく感じました。でも、写真ではあの時に見た景色をそのままでなく、大きさが上手く入ってこないものがあり、できるだけ目に焼き付けておこうと思いました。

【カウラへ】　カウラに着いて、ホストファミリーに会う時が来たと思い、わくわくがどんどん大きくなっていきました。ホストファミリーと実際に会い、緊張はしていましたが優しく接してくれて、とても嬉しかったです。ホストファミリーの家では、お土産を渡したとき喜んで受け取ってもらい嬉しかったです。グーグルマップでホストファミリーと一緒に家を見たり、家にあったエアホッケーを一緒にしたりなど、とても楽しく過ごしました。休日、ホストファミリーと日本のレストランへ行き日本食を食べました。ホストブラザーの妹がラムネを飲んでいるとき、ビー玉が味を出しているのかと聞かれ、ガラスでできていると、伝えたときはすごく笑っていました。とても優しいホストファミリーとの別れはとても悲しかったですが、次は日本に来ると分かったので楽しみに待っていようと思いました。カウラでは、学校での授業、ホストファミリーとの出会い、ランタンパレード、ボン・ファイヤーなど、たくさん良い思い出ができたので、すごく良かったです。

▲カウラの広大な土地を背景に

▲ホストブラザーのニールと

【カウラを離れキャンベラへ】　キャンベラに着いたときは、あまりに楽しいオーストラリアでの毎日に、もうすぐ終わりが来てしまうと思い、あっという間に一週間が過ぎてしまったと思いました。

【帰国】　日本へ帰ってきたとき、もう終わっちゃったと思いました。楽しいこと、勉強になったこと、たくさんの人へ伝えなければと思ったこと、優しい人ばっかりと思ったり、別れが悲しかったり、たくさんのことを感じました。派遣授業は終わりましたが、このメンバーは一緒にいると楽しいので、もしみんなでまた会える時があったら、嬉しく感じます。派遣メンバーに選んでいただき、オーストラリアに行かせてもらいありがとうございました。

「I love Australia.」

東中学校　２年　阿　部　ななせ

私がオーストラリア訪問団に応募したのは、オーストラリアの人と仲良くなりたいという強い意志があったからです。

ご縁があり面接に合格した時から、オーストラリアに行く準備が始まりました。 事前研修会では様々な想定を考えて ALT の先生方と会話をさせていただきました。すぐに時間が経ち、オーストラリアに出発する日が訪れました。私は不安と高揚の入り混じった複雑な気持ちで日本を旅立ちました。 オーストラリアに着いてからはまだ実感が湧きませんでしたが、透き通るような美しい空や英語ばかりの景色に圧倒され、まるで別の世界に来てしまったかのような感覚に打ちのめされてしまいました。

ここからは、私がオーストラリアで体験したことを紹介します。

▲ホストシスターのソフィーと

１つ目は、ホストファミリーと過ごしたことについてです。私のホストファミリーは私のことを暖かく迎えてくれました。初めて会ったときに嬉しすぎてハグをしたことを覚えています。ホストファミリーの一人のソフィーさんとは一緒にピザを作ったり、自転車に乗ってタ日を見に行ったりしました。広大な空と美しい色彩を成す空にまるで別の惑星を見上げているようでした。また一緒に絵を書いたり、ジブリの思い出のマーニーという映画を観たりしました。海外の方が日本の映画を好いていてくれることに、日本人として少し嬉しさを感じました。ホストファミリーの方々から本当にたくさんの事を経験させてもらいました。また、ホストファミリーの家はたくさんの動物を飼っており、元気で人懐っこい犬や猫、初めて見たアルパカ、ホロホロ鳥というかわいらしい鳥に出会いました。アルパカにエサをあげようとしたのですが警戒されてしまい、一筋縄でいかない自然の厳しさを知りました。ホームステイ先ではオーストラリアでしかできない様々な体験をさせてもらいました。

▲ソフィーとの再会を誓う

２つ目は、オーストラリアと日本の関係についてです。オーストラリアは親日的な国家で、今日では 107 件の姉妹都市関係を日本と結んでいます。そしてオーストラリアの学校の中には日本語の授業がある学校があります。私が行った聖ラファエル校も日本語の授業があり、日本の文化に興味を持っている生徒が多くいました。ホームステイをしたカウラという地域には聖ラファエル校や、戦時中に起こったカウラ脱走事件での日本人墓地があります。また、オーストラリアは友好的な人が多く、学校体験に行ったときに現地の生徒と話した際、笑顔で会話する事ができました。そして学校体験が終わった後には、オーストラリアの国会議事堂を見学しました。そこでは歴代の総理大臣の肖像画や、とても広い議場を見させてもらいました。

▲キャンベラの国会議事堂を見学

オーストラリアに行って知ったことは、友好的で優しい人が多く、多文化でお互いを尊重しているということです。そして私は、今回の訪問を通してオーストラリアが大好きになりました。また、オーストラリアで多くのことを学ぶことができたのは、たくさんの人の支えがあったからです。この事業に関わっていただいた方々、ホームステイ先の家族の皆さん、聖ラファエル校の方々、心から感謝申し上げます。オーストラリアに行けて本当に良かったです。

「オーストラリアに行ってみて」

東中学校　2年　島　田　亜　子

オーストラリア派遣事業で私は、オーストラリアの方々の温かみを感じました。今回、私がオーストラリアで体験したこと、また体験して感じたことをお話しします。

まず、オーストラリアでは戦争についてたくさんのことを勉強しました。私は学校などで歴史の授業を通してしっかり勉強していますし、テレビでもたまに目にするので、日本が関わった戦争についてはかなり知っているつもりでした。しかし、オーストラリア派遣事業があってから初めて日本の戦争とオーストラリアのカウラが関わっていたことを知りました。ミディさんの話を聞いたり、戦争記念館などに行ったりするにつれ、日本とカウラの関わりをどんどん深く知っていきました。兵士１人１人にもしっかり人生があったこと、日本がカウラの人々にひどいことをしたことも知りました。私は、話を聞いて、戦争当時、私は生きていたわけではないし、私が直接カウラの人々にひどいことをしたわけではないけれど、同じ日本人として、複雑で悲しい気持ちになりました。改めて、戦争の悲惨さと二度としてはいけないということを強く思いました。

▲キャンベラの戦争記念館を見学

次に、ホームステイについてです。ホームステイはオーストラリア派遣事業の中で、一番長い時間体験しました。私がホームステイした家の子はイミーといって、2023 年 10 月に私が受け入れた子でした。その時、すごく仲良くなったし、インスタグラムで連絡を取り合っていたため、緊張や心配はあまりありませんでした。イミーの家族は、お父さん、お母さん、兄の４人と犬が１匹です。お母さんはシェフなので、料理がほんとに美味しかったです。しかし、量が多くて私は何回か残してしまったのですが、イミーたちは余裕で食べていて、驚いたし、凄いと思いました。イミーとは２回公園へ行きました。日本の公園には絶対ないような遊具があって、スリル満点でとても楽しかったです。イミーの兄とは、夕方に 2 人で散歩に行きました。初めは会話が弾むか少し心配でしたが、相手がたくさん話してくれたので、どんどん会話が弾んで、とても楽しい時間を過ごしました。

▲ホストシスターのイミーと

私が 5 日間本当に充実して生活できたのは、イミーの家族たちが私を本当の家族のように接してくれたからだと思います。ホームシックだった私に、イミーのお母さんが「あなたは本当の家族です。自分の家のように生活してください。」と言ってくれたのは安心したし、本当に嬉しかったです。

学校体験では、生徒みんながフレンドリーでとても楽しい時間を過ごしました。イミーとイミーの友達と一緒にお弁当を食べました。イミーの友達は私にとても優しくしてくれて、とても嬉しかったです。日本の学校とは大分違って、新鮮な体験をさせてもらいました。

言葉が伝わらなくて、大変なこともたくさんありました。しかし、言語や環境が違っても人の暖かさ、優しさというのは世界共通だと思いました。

オーストラリア派遣事業にはたくさんの人のおかげで行けました。一番近くで支えてくれた、お父さん、お母さんにはたくさん感謝の気持ちを伝えようと思います。

▲聖ラファエル校での学校体験

「オーストラリア派遣事業を通して」

東中学校　2年　菅　原　凛　希

オーストラリア派遣事業を通して、感じたこと、学んだことを紹介します。

私は、以前から習い事で外国人と関わることがあり、外国に興味を持っていて、日本と異なる文化を肌で感じてみたかったので、オーストラリア派遣事業に応募しました。

事前研修の語学演習では、ALT の先生方と英語でやり取りするのが、学校の授業とは異なるため、難しかったです。また、班での出し物やダンス発表の練習では不安がありましたが、回数を重ねるごとに完成していき、楽しくなっていきました。

▲ALT との会話に熱心に取り組む

実際に、聖ラファエル校で班での出し物をしたときは、英語での説明が難しかったですが、理解しようとしてくださったり、ダンスの発表では手拍子をして乗ってくださったり、親切な方々だなと思いました。また、日本に興味をもってくれている人が多いということを知り、うれしかったです。

私は、研修に行くまでは、言語や文化が違う海外は怖いなと思っていました。ですが、お店の従業員は「オーストラリア楽しんでね！」など気軽に話しかけてくださったり、学校では、困っていると教えてくれたり、優しい方が多かったです。私も、日本で困っている外国人がいたら、自分から助けられるように、英語を勉強したいなと思いました。

▲聖ラファエル校の生徒と気さくに会話

私は、このオーストラリア派遣事業で、様々なことを学ぶことができました。

ランタンパレードや慰霊式典に参加させてもらい、戦争について考える時間が多く、オーストラリアと日本の関係などを学びました。カウラブレイクアウトについて知った時は、戦争は、人を変えてしまう恐ろしいものだと思いました。また、オーストラリアの方々が、日本人墓地を作ってくれたことを知った時は、オーストラリアの方の優しさに感動しました。

私は、戦争記念館で見た日本兵が刀を振りかざす一枚の写真が印象に残っています。日本人として見たくない写真でしたが、目を背けてはいけないと思い、戦争は二度と起こしてはいけないと改めて考えました。他にも、オーストラリアでは、人の目を気にし過ぎず、多様性を受け入れて、個性を大切にしていているのが素敵だなと思いました。研修中は、オーストラリアのことを知ると同時に、違う視点で日本を知ることもできました。私は、研修を通し、オーストラリアをより好きになったし、いろいろな国に行ってみたいとも思うようになりました。実際に海外に住むと、また違ったことを学べると思うので、海外に住んでみたいとも思いました。

▲ホストシスターのローラと

素敵なオーストラリア研修、勇気を出して、挑戦してよかったです。たくさんの準備をしてくださり、支えてくださり、このような貴重な体験をさせてくださった家族や先生方、白石市役所の方々、協力してくださったみなさんに感謝したいです。

「オーストラリア派遣事業を振り返って」

東中学校　2年　八　木　颯　介

私が、この派遣事業に応募した理由は、小さい頃から外国の方と話す機会が多くあり、本場で話してみたいという気持ちが大きかったからです。家にオーストラリアから来た人がいて、とてもオーストラリアに興味がわきました。

事前研修では、普段授業で使わないような英語を使いながら ALT の先生と話しました。オーストラリアに行ってからは、この事前研修があって本当に良かったと思いました。

出発の日、市役所からバスで駅へ行く時に、皆さんが手を振ってくれたことがとてもうれしかったです。空港に着いて、飛行機が出発するまで、不安な気持ちがだんだん大きくなりました。その時不安がなくなったのは、一緒に行った派遣生の皆さんのおかげです。皆さんのおかげでオーストラリアに不安なく行くことができました。

オーストラリアに行ってからは、日本と違う文化だということが一目で分かりました。私が特に印象的だったことは3つあります。

1つ目は、政治です。日本は封鎖的ですがオーストラリアは開放的で親しみやすいという印象があります。その理由は、日本は入れない国会議事堂に、オーストラリアは自由に入れるからです。オーストラリアの国会議事堂の中には、歴代の総理大臣の肖像画やとても広いホール、議場、長い庭があります。ホールはお金を払えば自由に使うことができます。議場は緑色と赤色の 2 つがあり、緑色の議場は政治家の人たちが子供みたいに討論する場で、赤色の議場はきちんとした話し合いをする場ということを聞きました。私はオーストラリアの政治は日本の政治より良いと思います。

2つ目は、学校です。今回、私が訪問したのはカウラ校です。ここで私は、学校の自由さを実感しました。日本は基本、午前4時間、お昼休憩して午後2時間授業があり、間 10 分の休憩があります。ですがオーストラリアは、午前 10 時に長い休憩があり、お昼にも休憩があり、基本自由で、お昼ご飯やお菓子を食べたり、バレーボールやバスケをしたりしていました。私もバスケに混ぜてもらいました。授業は、オーストラリアでもパソコンを使いながら授業していました。また、派遣生全員で出し物をし、ダンスホールという曲に合わせてダンスを披露しました。とても緊張したけど、成功して良かったです。オーストラリアの学校は、部活がないというのも印象的でした。みんな自分の好きなスポーツは、クラブや家でやっている人が多かったです。僕のホストファミリーは、家族全員でバスケをやっていました。仲良しでいい家族だなと思いました。

▲聖ラファエル校での学校体験

▲ホストファミリーと話す

3つ目は、都市（シドニー）です。オーストラリアの都市は、独特な建物や見慣れていたお店、とても高いビルがあります。シドニーで見た印象的な建物はオペラハウスです。オレンジのような形をした屋根が並んでいたことにびっくりしました。フェリーに乗って、ハーバーブリッジとオペラハウスが並んで見える景色は最高でした。日本のお店もありました。そこには、焼肉屋さんと博多屋さんなどがありました。さすが多文化社会だと思いながら歩きました。本当に良い場所で、将来、住みたいと思いました。

▲シドニー市内でフェリーに乗船

この経験を踏まえて、私は新たな挑戦を掲げました。それは、英検3級以上を取ることです。本場に行ったからこそ、絶対に取れる気がします。この経験をさせてくれた家族や市役所の皆さん、関係者の皆さんに心から感謝しています。最高の体験をありがとうございます。

「令和６年度オーストラリア友好親善訪問団の引率を終えて」

団長　佐久間　詳　子

この度、7 月 29 日（月）から 8 月 7 日（水）までの 10 日間、オーストラリア友好親善訪問団団長の任を務めさせていただきました。10 名の大切な子ども達をお預かりし、しかも海外の地へという重圧に、引率が決まってからは不安な毎日でした。しかし、事前研修で子ども達と出会ってからは心を切り替え、この派遣事業をより良いものにするため、想像力を働かせ、出来る限りを尽くそうと事前準備に努めました。

白石市役所正面玄関前で行われた出発式には、多くの方々にお越しいただき、感無量！オーストラリアの地で頑張ろうと、更に心のギアを上げました。

最初の難関は東京駅から 2 回の乗り換えを経て向かう羽田空港。子ども達とはぐれず無事に引率できるだろうか･･･手作りの旗を持って先頭を歩く私に、子ども達はしっかり付いてきてくれました。「この子達となら大丈夫」と確信しました。

オーストラリアでは、シドニー、カウラ、キャンベラに滞在しました。その中で、大きな目的の一つである、カウラ市の聖ラファエル校へ到着した際には、初めて会ったばかりのホストファミリーと、抱き合って喜ぶ姿も見受けられ、子ども達のたくましさに感動しました。

同校へ登校初日の 1 時間目は、これまで事前研修で準備してきた出し物の披露です。全体のダンス発表後は、書道、けん玉、折り紙と各コーナーに分かれて、英語にジェスチャーを交えコミュニケーションを取りながら、同校生徒の皆さんに、日本の文化を体験いただきました。どのコーナーも笑い声や歓声が上がるなど盛り上がり、精一杯対応している子ども達の姿は立派で、日本にいる頃よりも一回り大きく見えました。

オーストラリアは親日の国と言われています。それを裏付けるように、行く先々でオーストラリア人の優しい声がけや笑顔に触れる機会がありました。国の面積が人の心に影響するものではないと分っていても、広大な土地がここに住む人々の心を穏やかにしていると錯覚することもありました。

▲カウラでの慰霊式典で献花

しかし、オーストラリアと日本の間には、悲しい歴史があったことも事実です。それは、第二次世界大戦中の日本兵捕虜集団脱走事件。その舞台となったのは、私達が訪問したカウラでした。

1944 年 8 月 5 日未明、カウラの地に収容されていた日本兵 1,104 人が、国の軍国教育のもと捕虜を恥とし集団脱走を試み、日本人 231 人とオーストラリア人 4 人が亡くなりました。そこに至るまでには、脱走を決行するか否か、一枚ずつ配られたトイレットペーパーに「○」か「×」を記入する投票が行われ、その結果「○」が多数となり脱走に踏み切ったそうです（後に本心の「×」を記入できる状況にはなかったとの証言有り）。武器もなく、食事用のナイフやフォーク、野球バットを武器とし脱走するということは、言わば「死」を覚悟してのことでしかありませんでした。

それ以降、カウラの地では、この悲劇的な脱走事件を忘れることがないよう、この日に平和の鐘（ニューヨーク国連本部の複製）式典や、日本兵捕虜収容所跡地をランタンを手に慰霊するパレードと式典、そして教会での慰霊ミサやオーストラリア人墓地と日本人墓地への慰霊献花など、複数の慰霊が毎年行われていました。80 年の時を超えた 2024 年 8 月 5 日、これらの平和を願う多くの節目の式典に、日本人として、白石市のオーストラリア友好親善訪問団も参列しました。式典中、私はこの事件を詳しく知らなかったことを申し訳なく思うと同時に、カウラの地で途切れることなく、日本兵の慰霊を行ってくださっていたことに、深い感動と自分でも捉えようのない涙が流れました。

▲カウラの夕焼け

このオーストラリア友好親善訪問団事業の趣旨である「豊かな国際感覚を育む」には、過去の出来事に向き合うことも必要であり、カウラの地を日本人が訪れる以上、その点を認識することはとても大切であると思いました。そして、未来を担う子ども達が、そのことを学ぶ意義深さを感じました。

カウラ市の夜は、星空がとても綺麗です。その美しい星空を眺め、日本では見ることのできない南十字星に「平和」を祈る・・・カウラとは、人に安らぎを与え、心を穏やかにする地なのだと、この頃には、自然と自分の中で納得できるものがありました。

オーストラリアでの 10 日間、子ども達はよく頑張りました。中学 2 年生にとってこの期間は長く感じたことでしょう。それでも、日に日に自信に満ち溢れ、成長する姿を目の当たりにし、引率として誇りにも思いました。

そして、その成長の背景に欠くことができない存在がいます。それは、現地ガイドのミディ中嶋氏の存在です。ツアーガイドの域を超え、「人生は出会い」や「夢を語る大切さ」などの体験談は、子ども達の心に響き、その後の言動に積極性が増したことは明らかでした。良き出会いに感謝です。

▲副団長（左）、ミディ氏（右）と

私自身も、オーストラリアの風に吹かれた実質 8 日間は全てが新鮮で、カウラの地でみた瞬く星のように、心が元気に輝く日々でありました。そして、観光旅行では得られない貴重な経験と、感動する多くの出会いもありました。それらを大切に育み、今後の業務への活力にして参ります。

結びに、聖ラファエル校でお世話になった皆々様、ホストファミリーのキャシー先生、現地で支えてくださった副団長の先﨑先生、そして、長期間の不在となる中、快く送り出してくださった商工観光課の皆様、派遣期間中も寄り添い支えてくださったまちづくり推進課の皆様、本事業にかかわった全ての方々に深く感謝申し上げます。

このような貴重な経験をさせていただき、大変ありがとうございました。

「カウラから、世界へ、平和を」

副団長　先　﨑　一　史

果てしなく広がる土地の眺めのよさに圧倒されながら、シドニーからカウラへと向かう道の途中で現地コーディネーターのミディ中嶋さんから聞いた話が、この旅の全般を貫くテーマを私に教えてくれました。

オーストラリアに到着した１日目から、現地ガイドのミディさんは本当に様々な事を教えてくれました。シドニー市内の観光の際の解説だけでなく、皆で夕食をとった際にはホームステイの時の心構えなども教えていただきました。このアドバイスはオーストラリア滞在中の我々が現地に順応するにあたって、少なからず良い影響を与えてくれたものと思います。生徒の皆も緊張した表情が解け、仲間たちとも、ミディさんとも絆を深めた夕食の場となりました。

▲シドニーでミディ氏（右）の話を聞く

▲カウラの広大な土地

２日目、シドニーからカウラへの 320 キロにもわたる車の旅となった日です。シドニーを抜けて田舎の風景を目の当たりにした時に、日本の風景との大きな違いを感じました。とにかく、「広い」のです。たくさんの写真を撮りましたが、とても納められるものではない「広さ」。例えるなら、少し昔の Windows の待受画面の草原がもう少しゴツゴツしたような風景。それが延々と続き、その中に牛や羊が時々群れているのが見える、そんな中を数時間かけて車で移動しました。改めて「異国の地に来たのだな」と思わされる風景の中で、この旅の中で一番の学びとなったミディさんの話を聞きました。

日本兵が捕虜収容所からの脱走を図り、うち 231 人が亡くなったカウラ事件。もちろんその概要は知った上で現地に入っていたのですが、ミディさんがバスの中で、運転しながらヘッドセットのマイクを通して聞かせてくれたカウラ事件の話は、また違ったリアリティを我々に植えつけました。犠牲者の数や発生時刻と言った情報だけでなく、その事件の背景、そこで散っていった日本兵一人一人の心情。そして、日本兵を弔い、墓地を作ってくれたカウラの人々の優しさ。ミディさんの話は、本やネットの情報だけでは得られない何かを確実に我々に残してくれました。語学や異文化体験と言った目的以上に、我々がカウラに行った意味を考えさせてくれたのです。予定していた時刻より早めにカウラに到着した我々は、ミディさんの機転で学校到着前に日本人墓地を訪れる事ができました。風景も空気感も違う遠い異国の地で、それも偽名のまま祖国の肉親と離れて眠る日本兵一人一人に、生徒も含め我々は想いを馳せざるを得ませんでした。

▲キャンベラの戦争記念館で集合写真

もちろん、ホームステイ先での生活や学校体験など、生徒も我々も学んだり楽しんだりしたことはここに書き尽くせないほどあります。しかしこの旅の２日目に感じた、戦争というものが残した暗い影、そしてそれをも包み込む現地の人たちの暖かさ、その後の交流の尊さは、この旅で肌で感じることができた一番の収穫であったのではないかと思います。

カウラ事件から 80 周年の式典に参加させていただき、その足で向かった首都キャンベラの戦争記念館では、オーストラリアから見た太平洋戦争について学ぶ事ができました。カウラで貴重な経験を積んだ生徒たちは、展示一つ一つを丁寧に見て、何か感じ取っている様子でした。

ランタンパレードの後、式典の中で日本人歌手の方が曲の合間に言っていた言葉。「カウラから、世界へ、平和を。」

日本から遠い海の向こうでは、戦争のニュースがいまだに止みません。こんな時勢だからこそ、我々がカウラに行き、感じた事を周囲に伝えていく責任を感じています。

令和６年度オーストラリアへの
白石市中学生派遣事業　事業報告書

令和７年１月　発行

編集・発行　白石市国際交流支援協議会
（事務局　白石市まちづくり推進課）